Tokyo Tokyo FESTIVAL

オペラ夏の祭典2019-20 Japan↔Tokyo↔World

別紙１

トゥーランドット　東京文化会館　（新制作）

日本オペラ界の総力を結集し、2020年に向けて世界へ発信するオペラプロジェクト第1弾！
大野和士 × オペラ界を席巻する演出家アレックス・オリエ × 24年ぶり来日・バルセロナ響

第1弾となる『トゥーランドット』は、スペインの演出家集団で、バルセロナオリンピック開会式の演出を手がけたラ・フーラ・デルス・バウスの芸術監督アレックス・オリエが演出を担当。キャストには世界トップクラスの歌手に、マエストロにより選りすぐられた日本の才能を組み合わせ、オーケストラピットには、同プロジェクトのために24年ぶりに来日するバルセロナ交響楽団が入り、まさに2020の祭典を盛り上げるにふさわしい公演となります。

公演概要

■日程　：2019年7月12日（金）18:30、13日（土）14:00、14日（日）14:00
■会場　：東京文化会館 大ホール
■指揮　：大野和士
■演出　：アレックス・オリエ　　■美術　：アルフォンス・フローレス
■衣裳　：リュック・カステーイス　　■照明　：ウルス・シェーネバウム
■出演　：トゥーランドット　イレーネ・テオリン（7/12、14）／ジェニファー・ウィルソン（7/13）
カラフ　テオドール・イリンカイ（7/12、14）／ デヴィッド・ポメロイ（7/13）
リュー　中村恵理（7/12、14）／砂川涼子（7/13）
ティムール　リッカルド・ザネッラート（7/12、14）／妻屋秀和（7/13）
アルトゥム皇帝　持木 弘（7/12、13、14）
ピン　桝 貴志（7/12、14）／森口賢二（7/13）
パン　与儀 巧（7/12、14）／秋谷直之（7/13）
ポン　村上敏明（7/12、14）／糸賀修平（7/13）
官吏　豊嶋祐壹（7/12、14）／成田 眞（7/13）
■合唱　：新国立劇場合唱団／藤原歌劇団合唱部／びわ湖ホール声楽アンサンブル
■管弦楽: バルセロナ交響楽団
■主催　：東京都／東京文化会館（公益財団法人東京都歴史文化財団）
■協力　：公益財団法人日本オペラ振興会（藤原歌劇団）
■制作　：東京文化会館／新国立劇場

＜チケットについて＞
〇料金：　SS席32,400円　S席27,000円　A席22,680円　B席18,360円　C席14,040円　D席9,720円
E席5,400円　F席3,240円　25歳以下席3,240円　※ハンディキャップ割引有
〇発売日：2018年12月8日（土）
〇購入方法：東京文化会館チケットサービス　03-5685-0650　ほか
※詳細は特設ウェブサイトご覧ください。　https://opera-festival.com/

Tokyo Tokyo FESTIVAL

オペラ夏の祭典2019-20 Japan↔Tokyo↔World

オペラ夏の祭典2019-20 Japan⇔Tokyo⇔World とは

「オペラ夏の祭典2019-20 Japan↔Tokyo↔World（東京文化会館公演)」は、東京都と東京文化会館（公益財団法人東京都歴史文化財団）が東京2020公認文化オリンピアードとして実施する国際的で大規模なオペラプロジェクトです。

マエストロ大野和士の総合プロデュースのもと、東京文化会館と新国立劇場が初めて共同制作を行い、日本を代表する各地の劇場や海外の劇場と連携して、２年に渡り展開します。

2019年は、アジア（中国）が舞台となる『トゥーランドット』（プッチーニ作曲）を上演。バルセロナオリンピックの開会式を手掛けたアレックス・オリエが演出します。また、大野和士が音楽監督を務めるバルセロナ交響楽団が24年ぶりに来日し、オーケストラピットに入ることも大きな話題です。

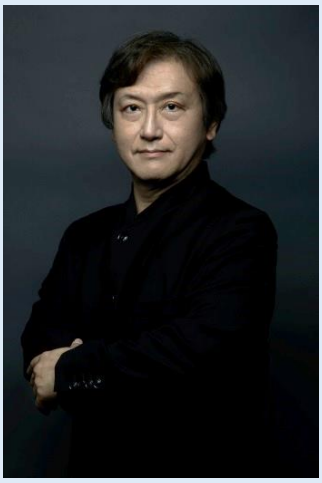
2020年は、ザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州立歌劇場との国際共同制作が実現し、祝祭感を持つ大作『ニュルンベルクのマイスタージンガー』（ワーグナー作曲）に挑みます。演出はドイツ・オペラ界待望の“将来の大器”と期待されるイェンス＝ダニエル・ヘルツォークが担当。1964年の東京オリンピックのレガシーである東京都交響楽団がオーケストラピットに入り再び2020年の祭典を盛り上げます。

当プロジェクトに関する情報

■2017年12月21日　共同制作発表記者会見　映像・資料
■『トゥーランドット』演出アレックス・オリエ　ビデオメッセージ
■2018年3月26日発表『ニュルンベルクのマイスタージンガー』国際共同制作　　等

当プロジェクトに関する情報は、特設ウェブサイトに掲載しております。
https://opera-festival.com/about

総合プロデューサー　大野和士



この企画は、日本オペラ史上初と言っても良い、日本のオペラ界の総力を結集して2020年の祭典に向けて世界に問う大プロジェクトです。

私は東京芸術文化評議会の評議員として、2020年に向けた文化事業に際し、“世界中の人が参加し、東京より発信されるオペラの制作”を提唱致しましたが、この度それが実現の運びとなりました。『トゥーランドット』は中国の王女が主役となる、いわばアジア大陸を舞台にした作品、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』はヨーロッパ大陸を舞台にした作品として、オペラネットで地球を結ぶという意図が反映されています。

演出には、現在、文字通りオペラ界を席巻している二人の演出の巨人を招聘、キャストは世界のトップクラスの歌手に、選りすぐられた日本の才能を組み合わせた、まさに一流どころの顔ぶれで話題には事欠かないことでしょう。

その上に特筆すべき点として、この企画が、新国立劇場と東京文化会館との共同制作であることが挙げられます。今までそれぞれに、日本の舞台芸術の屋台骨を背負ってきた劇場が、史上初のコラボレーションとして、この特別な機会にオペラを共に作り上げることとなりました。これはとりもなおさず、オペラに於ける、東京都と国との提携公演でもあります。また、日本を代表する各地の劇場とも連携し、他の劇場での公演を行う予定でおります。

大きなエネルギーに支えられ、プロジェクトは着実に進行しています。この結果を皆様と共に分かち合えればこれに勝る喜びはありません。